

No.56

2007年7月2日号

各チームの購読料はチーム登録料に含まれています。定価(一部100円)

(社)熊本県サッカー協会だより

発行/社熊本県サッカー協会
〒860-0831
熊本市八王寺町9-60
TEL 096-334-5565
FAX 096-334-5568
発行者/◎広報記録委員会
石丸 捷一

ご挨拶

(社)熊本県サッカー協会
第七代会長

井 薫氏



私は、5月26日の熊本県サッカー協会平成19年度通常総会で、会長に選任をいただきました井薫です。

一言、ご挨拶を申し上げますが、当日は夕方記者発表、さらにその後、福田豊喜顧問の叙勲受賞祝賀会が催され、その中で時間をいただき、私の決意、抱負などを述べさせていただきました。しかし、それは会にご出席をいただいた、限られた方々のみにお伝えした次第で、県下の多くのサッカーに関する皆様には伝わりませんので、情報共有、それに基づく理解をいただく意味で、当日の挨拶から引用致します。

「まずこの度、ご勇退をなさいます荒木時彌会長の、永年のご苦

勞とご功績に対し、心からの労いと、敬意を表したいと思ひます。本当にご苦勞さまでした。同じくご勇退の永井副会長にも、熊本県のサッカーの大先輩として同様の敬意をお伝え致します。緒方名誉副会長には引き続き、そして荒木、永井様にはこれからも立場を超えて、大所、高所からのご指導をよろしくお願い致します。

さて、会長にご選任いただきましたが、熊本県サッカー協会が掲げる、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化の振興に寄与し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献します」の重点目標を考へる時、その社会的使命、役割の大きさにまさに身の引き締まる

思いです。そして特に今年は、県協会の2007年度の5つの重点目標の中で、JFAアカデミー(熊本宇城)開設の推進、とロッソ熊本の支援を緊急テーマとして取り組みたいと思ひます。そのために関係者の皆さんのご理解とご協力をお願いしたいと思ひます。

私もまた、熊本県体育協会の副会長としての体験を基に、微力ですが頑張つて行きたいと思ひます。幸い遠山藤野両副会長は同世代ですし、新任の河野、上野副会長共々、色々とお話をさせていただいた。勿論、キッズプロジェクトの推進、都道府県フットボールセンター建設の推進、地

域・他のスポーツ団体との連携強化の三つの項目の実現に向かっては、北岡専務を中心に協会一丸となつて日々の確かな積み重ねを大切にしたいと思ひます。

以上が総会での挨拶の要約です。記者発表では、会長受諾の経緯を尋ねられました。それについて「要請を受けましたが、私はサッカー協会の内外に適任者は居られる訳で、その旨お話しを要請の中で「JFAの約束2015、2050」の説明を受け、「スポーツ文化の創造と社会の発展に貢献する」という理念は、県体育協会の方針と合致するので、その推進のお手伝いが出来るのであれば」と説明をしました。

さらに、当面の課題としての質問には、前述した部分ですが、「JFAアカデミー熊本宇城の開設に向けた県協会としての協力。これは5月16日に宇城市で行われた、日本サッカー協会の田嶋幸三専務理事の演題「日本サッカー協会におけるエリート教育と若年層育成プログラム」の講演内容。さらに宇城市の熱い思いを支える事の大切さを協会として認識しているから。

最後に私の抱負、思いとしては、JFAにアンバサダー(サッカー大使)と言う位置づけがあり、かつての名選手が名を連ねています。既存のサッカー関係者だけではなく、広く世間一般にも知名度の高い点を生かしながら、JFAの活動を積極的にPRする。と定義づけられています。

そこで私は自分ですうのとおかしいのですが、熊本県内向けのこの役を買って出ようと思ひています。お断りを致しておきますが、私が知名度が高い等とは、いささかも思ひません。が、立場上、スポーツ以外にも多くの会議や文化的行事に出席の機会があります。そこで「熊本のサッカーの現状と夢」を多くの人に語り、PRをしたいと思ひます。

最後に「昨日と同じ生活がしたければ、今日から変わらなければならぬ。これは私の好きな言葉ですが、「改革がなければ、明日はない」とも言えると思ひます。現状に甘んじるのではなく、皆んなで一緒に大きな夢に向かって進みたいものです。

どうぞよろしくお願ひいたします。

会は何をしているのと思うだろう。とにかく選手たちをサポートする意味で、後期日程のホームゲームにサッカー関係者の観戦を促したい」とコメントしました。

正味財産増減計算書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

社団法人熊本県サッカー協会

単位(円)

科 目	当年度	前年度
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
受取入会金	255,000	0
受取会費	3,796,000	0
登録事業収益	65,025,995	0
大会運営事業収益	36,588,130	0
収益事業収益	15,719,112	0
日本協会補助金収入	33,167,350	0
熊本県体育協会補助金収入	6,160,381	0
熊本県補助金	1,495,000	0
その他の補助金	3,801,739	0
雑収益	612,681	0
他会計からの繰入額	6,003,817	0
経常収益計	172,625,205	0
(2) 経常費用		
登録事業費	46,449,450	0
各種委員会大会費	64,971,679	0
指導事業普及費	6,158,201	0
国体委員会事業費	5,745,680	0
都市協会事業費	235,995	0
事務局関連事業費	7,806,706	0
収益事業費	15,641,962	0
事務局管理費	19,949,116	0
給料手当	10,527,950	0
事務用品費	1,248,533	0
消耗品費	29,199	0
通信運搬費	1,726,275	0
会議費	500,070	0
旅費交通費	95,652	0
支払手数料	157,001	0

へ左上へ続く

第2号議案

貸借対照表

平成19年3月31日現在

社団法人熊本県サッカー協会

単位(円)

科 目	当年度	前年度
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	40,104,678	0
未収金	1,958,460	0
流動資産合計	42,063,138	0
2. 固定資産		
(2) 特定資産		
積立預金	20,000,000	0
特定資産合計	20,000,000	0
(3) その他固定資産		
建物	702,786	0
什器備品	1,099,370	0
減価償却累計額	-406,840	0
敷金	600,000	0
その他固定資産合計	1,995,316	0
固定資産合計	21,995,316	0
資産合計	64,058,454	0
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	215,190	0
前受金	10,560,647	0
預り金	7,270,373	0
未払法人税等	191,100	0
流動負債合計	18,237,310	0
負債合計	18,237,310	0
III 正味財産の部		
1. 指定正味財産		
指定正味財産合計	22,837,253	0
2. 一般正味財産		
正味財産合計	22,983,891	0
負債及び正味財産合計	45,821,144	0

平成19年度 通常総会

賃借料	1,800,000	0
雑費	167,109	0
印刷製本費	592,987	0
福利厚生費	1,107,673	0
水道光熱費	390,876	0
図書新聞費	36,561	0
諸会費	278,000	0
リース料	534,345	0
保険料	403,748	0
顧問料	84,000	0
租税公課	8,000	0
減価償却費	261,137	0
他会計への繰出額	6,003,817	0
退職金積立基金支出	1,000,000	0
60周年記念誌基金支出	1,000,000	0
施設拡充積立基金支出	4,000,000	0
一般会計	3,817	0
経常費用計	172,962,606	0
当期経常増減額	-337,401	0
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
経常外収益計	0	0
(2) 経常外費用		
経常外費用計	0	0
当期経常外増減額	0	0
当期一般正味財産増減額	-337,401	0
一般正味財産期首残高	23,321,292	0
一般正味財産期末残高	22,983,891	0
II 指定正味財産増減の部		
当期指定正味財産増減額	0	0
指定正味財産期首残高	22,837,253	0
指定正味財産期末残高	22,837,253	0
III 正味財産期末残高	45,821,144	0

減価償却費	260,000	0
予備費	2,000,000	0
他会計への繰出し	[3,500,000]	0
退職金積立基金支出	1,000,000	0
60周年記念誌基金支出	500,000	0
施設拡充積立基金支出	2,000,000	0
事業活動支出計	163,676,500	0
事業活動収支差額	-7,239,500	0
Ⅱ 投資活動収支の部		
1. 投資活動収入		
投資活動収入計	0	0
2. 投資活動支出		
投資活動支出計	0	0
投資活動収支差額	0	0
Ⅲ 財務活動収支の部		
1. 財務活動収入		
財務活動収入計	0	0
2. 財務活動支出		
財務活動支出計	0	0
財務活動収支差額	0	0
Ⅳ 予備費支出		
当期収支差額	-7,239,500	0
前期繰越収支差額	42,063,138	0
次期繰越収支差額	34,823,638	0

収 支 予 算 書 (特別会計)

平成19年 4 月 1 日から平成20年 3 月31日まで

社団法人熊本県サッカー協会 単位 (円)

特 別 会 計 区 分	退 職 金 積 立 基 金	60周年記念 事業積立基金	施 設 拡 充 積 立 基 金	特別会計 予算額 (合計)
科 目	予 算 額	予 算 額	予 算 額	
Ⅰ 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
他会計からの繰入金収入	[1,000,000]	[500,000]	[2,000,000]	[3,500,000]
事業活動収入計	1,000,000	500,000	2,000,000	3,500,000
2. 事業活動支出				
事業活動支出計	0	0	0	0
事業活動収支差額	1,000,000	500,000	2,000,000	3,500,000
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	0
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0	0
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0
当期収支差額	1,000,000	500,000	2,000,000	3,500,000
前期繰越収支差額	3,003,099	1,833,440	4,000,000	8,836,539
次期繰越収支差額	4,003,099	2,333,440	6,000,000	12,336,539



第 5 号議案

収 支 予 算 書

平成19年 4 月 1 日から平成20年 3 月31日まで

社団法人熊本県サッカー協会

単位 (円)

科 目	予 算 額	前年度予算額
Ⅰ 事業活動収支の部		
1. 事業活動収入		
入会金収入	[125,000]	0
会費収入	[3,675,000]	0
事業収入	[109,540,000]	0
登録事業収入	(64,920,000)	0
登録料(チーム・個人)	43,660,000	0
審判登録料	18,710,000	0
フットサル登録料	2,550,000	0
大会運営収入	(34,220,000)	0
参加料収入	31,905,000	0
賛助金・広告料収入	2,200,000	0
その他の事業収入	115,000	0
収益事業収入	(10,400,000)	0
指導事業収入	(0)	0
補助金等収入	[38,897,000]	0
日本協会補助金	(31,597,000)	0
熊本県体育協会	(3,218,000)	0
熊本県補助金	(1,000,000)	0
その他補助金	(3,082,000)	0
雑収入	[700,000]	0
他会計からの繰入金収入	[3,500,000]	0
事業活動収入計	156,437,000	0
2. 事業活動支出		
事業費支出	[134,276,500]	0
登録事業支出	(45,770,000)	0
各種委員会大会	(61,346,500)	0
指導普及事業支出	(6,402,000)	0
国体委員会事業支出	(5,618,000)	0
都市協会事業支出	(230,000)	0
事務局関連事業支出	(5,020,000)	0
収益事業支出	(9,890,000)	0
管理費	[25,900,000]	0
事務局管理費	(25,900,000)	0
給料手当	13,500,000	0
事務用品費	800,000	0
消耗品費	30,000	0
通信運搬費	1,800,000	0
会議費	1,000,000	0
渉外費	100,000	0
旅費交通費	200,000	0
支払手数料	160,000	0
賃借料	1,800,000	0
雑費	200,000	0
印刷製本費	800,000	0
什器備品費	100,000	0
福利厚生費	1,060,000	0
修繕費	100,000	0
水道光熱費	400,000	0
図書新聞費	50,000	0
諸会費	280,000	0
リース料	540,000	0
保険料	410,000	0
顧問料	300,000	0
租税公課	10,000	0
法人税等	0	0

第 3 号議案

平成19年度・20年度

社団法人 熊本県サッカー協会理事 (案)

No	役 職	氏 名	新任・再任の別
1	理 事	井 薫	新 任
2	理 事	藤 野 健 一	再 任
3	理 事	遠 山 和 美	〃
4	理 事	河 野 等	〃
5	理 事	上 野 住 江	〃
6	理 事	北 岡 長 生	〃
7	理 事	松 崎 正 孝	〃
8	理 事	今 田 周 作	〃
9	理 事	河 田 信 之	〃
10	理 事	堀 行 徳	新 任
11	理 事	藤 山 直 秀	再 任
12	理 事	石 丸 捷 一	〃
13	理 事	山 城 大	〃
14	理 事	菊 本 和 幸	〃
15	理 事	小 野 龍 男	〃
16	理 事	藤 家 澄 夫	〃
17	理 事	満 田 和 浩	〃
18	理 事	高 野 定	〃
19	理 事	五 嶋 和 統	〃
20	理 事	北 野 直 俊	〃
21	理 事	印 南 静 男	〃
22	理 事	工 藤 幸 史	〃
23	理 事	野 田 秋 夫	〃
24	理 事	中 山 貴 嗣	〃
25	理 事	淵 田 邦 彦	〃
26	理 事	中 村 洋 介	〃
27	理 事	武 田 昭 博	〃
28	理 事	池 田 政 秀	〃
29	理 事	喜 久 川 浩 幸	〃
30	理 事	原 弘 明	〃
31	理 事	石 原 輝 捷	新 任
32	理 事	野 田 盛 一 郎	再 任
33	理 事	岩 坂 富 二 郎	新 任
34	理 事	田 辺 信 一	再 任
35	理 事	山 本 武 道	〃
36	理 事	仲 道 隆	〃
37	理 事	河 野 忍	新 任

1	監 事	緒 方 史 郎	再 任
2	監 事	中 山 重 臣	〃

平成19年度・20年度

社団法人 熊本県サッカー協会

名誉会長・名誉副会長・顧問 (案)

No	役 職	氏 名	新任・再任の別
1	名 誉 会 長	荒 木 時 彌	新 任
2	名 誉 副 会 長	緒 方 健 司	再 任
3	特 別 顧 問	宮 嶋 昭 二	新 任
4	顧 問	倉 重 剛	再 任
5	顧 問	主 海 偉 佐 雄	〃
6	顧 問	富 田 豊 喜	〃
7	顧 問	緒 方 司 朗	〃
8	顧 問	前 田 浩 文	〃
9	顧 問	山 木 徹	〃
10	顧 問	永 井 隆 一	新 任

第16回熊本県
シニアリーグ始まる

第16回熊本県シニアサッカー戦は平成19年5月27日に開会式を行った。

今年はチーム数が多くなった関係で昨年の成績が上位8チームが一部となり、下位6チームと新しく加入したチームを下位に加入して8チームとなり二部の総当たりとする。

開幕日の5月27日は8時半より開会式を熊本自衛隊グラウンドに集合して行った。この会の第一節5月27日変則で菊陽町のグラウンドは一部で二部が一つ入り5試合を行う。

う。

北熊本の自衛隊のグラウンドでは8時30分から開会式を行いすぐに試合を行う。

5月27日は北熊本の方では3試合のみ行う。外は変更の点は当番チームは今迄と違って試合の結果を各報道関係に連絡する。

又、今迄の当番は第1試合に当るチームが行い、又後片付けを行うチームは第4試合のチームとなる。尚、一部と二部の入れ替え戦は行わず自動昇格となる。又自動降格となる。



平成19年度 熊本県高等学校サッカー競技

熊本県大津高校 6 連覇なる

平成19年度熊本県高等学校総合体育大会サッカー競技は、平成19年5月26日(土)から6月5日(火)にかけて、水前寺競技場ほか10高校のグラウンドを会場として行われた。決勝戦は、大津高校と熊本国府高校の対戦、試合立ち上がりからボールに対するアプローチが早く、攻守の入れ替わりが激しいゲームとなった。

大津は両サイドにボールを集め、⑨深山を起点に幅広い展開を見せゲームを優位に進める。前半10分に先制した大津は、組織的なパスワークを繰り返してゲームの主導権を握る。熊本国府もペナルティエリア付近まで攻め込むものの、大津DF陣の堅い守りの前に得点を奪うことが出来ない。

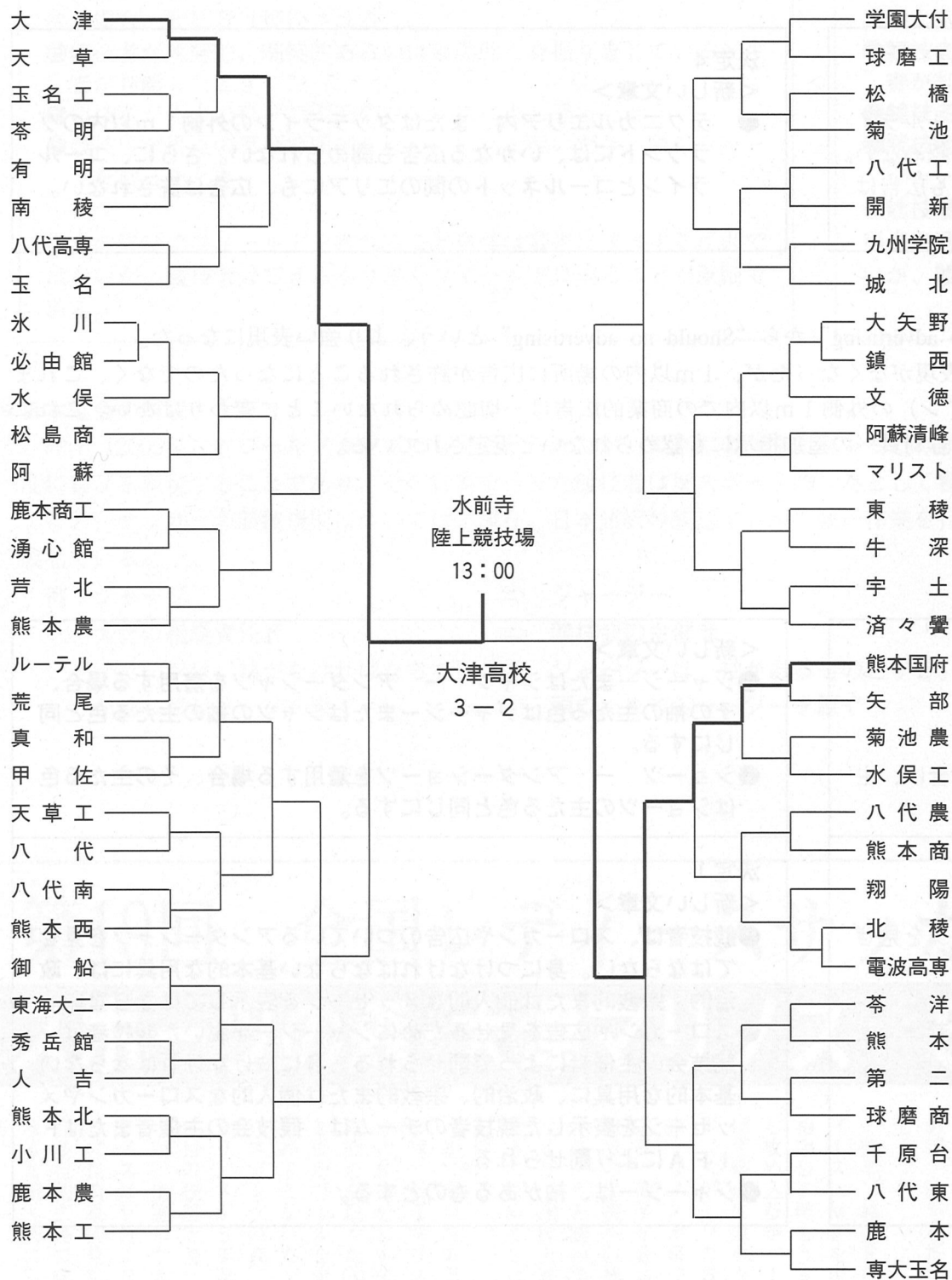
後半開始10分までに大津が3点を奪ったが、熊本国府はあきらめず、豊富な運動量からスペースへの飛び出しを見せ、2点を取り返した。

熊本国府はなおも攻め続けたが、追いつくことが出来ず、大津高校が熊本県高校総体6連覇を達成した。

大津高校は、熊本県代表として、7月28日より佐賀県で開催される平成19年度全国高等学校体育大会に出場することになる。活躍を期したい。

熊本県サッカー協会
2種委員長 中村 洋介

平成19年度 熊本県高等学校総合体育大会サッカー競技



青は大津 緑・白の縦縞は国府



国際サッカー連盟（以下、F I F A）から回状1088号をもって2007年競技規則の改正について通達されました。下記のとおり、日本語に訳すと共に日本協会の解説を付しましたので、各協会、連盟などで、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるようお願いいたします。

なお、改正等の効力の発生は国際的に7月1日からとなりますが、日本協会、各地域／都道府県協会等が主催する試合については、例年どおり7月1日以降のしかるべき日（遅くとも8月中）から施行することといたします。

記

2007年競技規則の改正について

第121回国際サッカー評議会（I F A B）年次総会が2007年3月3日にイングランドのマンチェスターで開催された。総会において決定された競技規則の改正と審判員への追加指示は、以下のとおりである。

1. 競技規則の改正および評議会の決定

第1条 — 競技のフィールド

決定4 ＜現在の文章＞ ● テクニカルエリア内あるいは、タッチラインおよびゴールラインの外側1メートル以内の地面には、いかなる広告も認めない。さらに、ゴールラインとゴールネットの間のエリアにも広告は許されない。	決定4 ＜新しい文章＞ ● テクニカルエリア内、またはタッチラインの外側1 m以内のグラウンドには、いかなる広告も認められない。さらに、ゴールラインとゴールネットの間のエリアにも、広告は許されない。
---	---

*日本協会の解説

広告を認めないことについて、原文（英語）は、“Shall no advertising” から “Should no advertising” という、より強い表現になった。

なお、“ゴールラインの外側1 m以内”の広告についての表現がなくなったが、1 m以内の場所に広告が許されることになったのではなく、これまでどおり、フィールドの境界線（ゴールライン、タッチライン）の外側1 m以内での商業的広告は一切認められないことには変わりはない。これについてはF I F Aに確認済みであり、競技規則の冊子内にある審判員への追加指示にも認められないと規定されている。

第4条 — 競技者の用具

基本的な用具

＜現在の文章＞ ● ジャージまたはシャツ ● ショーツ — サーマルアンダーショーツを着用する場合は、主な色がショーツの主な色と同色とする	＜新しい文章＞ ● ジャージまたはシャツ — アンダーシャツを着用する場合、その袖の主たる色はジャージまたはシャツの袖の主たる色と同じにする。 ● ショーツ — アンダーショーツを着用する場合、その主たる色はショーツの主たる色と同じにする。
決定1 ＜現在の文章＞ ● 競技者は、スローガンや広告のついているアンダーシャツを見せなくてはならない。 ● スローガンや広告を見せるためにジャージを脱いだ競技者は、大会の組織責任者によって罰せられる。 ● ジャージは、袖がなければならない。	決定1 ＜新しい文章＞ ● 競技者は、スローガンや広告のついているアンダーシャツを見せなくてはならない。身につけなければならない基本的な用具には、政治的、宗教的または個人的なメッセージを表示してはならない。 ● スローガンや広告を見せるためにジャージを脱いだ競技者は、競技会の主催者によって罰せられる。身につけなければならない基本的な用具に、政治的、宗教的または個人的なスローガンやメッセージを表示した競技者のチームは、競技会の主催者またはF I F Aにより罰せられる。 ● ジャージは、袖があるものとする。

*日本協会の解説

これまでショーツとアンダーショーツ（サーマルアンダーショーツ）の主たる色は同色としていた。これに加え、半袖等のジャージ（シャツ）の下に別のシャツを身につけ、そのシャツが外に露出するような場合、両方の袖の色を同色とすることにより、競技者の識別をより確実に行うことができるようになる。

また、得点時にジャージ（シャツ）を脱いでスローガンや広告を見せる競技者がいるが、まずはジャージ、ショーツ、ストッキング、靴およびすね当てに、政治的、宗教的または個人的なメッセージを表示してはならないとした。ただし、事前に承認を得られた広告の表示を除く。

第4の審判員

＜現在の文章＞ ● 第4の審判員は、競技会規定に基づいて任命され、3名の審判員のいずれかがその職務の続行が不可能になった場合にその職務を行う。第4の審判員は、常に主審を援助する。	＜新しい文章＞ ● 第4の審判員は、競技会規定に基づいて任命することができ、リザーブ副審が任命されていない限り、3名の審判員のいずれかがその職務を続行することができなくなった場合にその職務を行う。第4の審判員は、常に主審を援助する。
--	---

●競技会規定に基づき、リザーブ副審も任命することができる。その任務は唯一、職務を続行することができなくなった副審に、または必要に応じ、第4の審判員に代わることである。

*日本協会の解説

高いレベルの試合では、主審と副審の任務遂行の専門性が高まっている。副審として登録している審判員がリザーブ副審として配置されているならば、仮に副審に事故があった場合、試合の要求するレベルの審判を提供することが可能になる。リザーブ副審は副審を専門とする審判員であるため、仮に主審に事故があった場合においても、それにとって代わることはできない。

2. 主審、副審ならびに第4の審判員への追加指示

得点の喜び

<現在の文章>

次の場合、競技者は警告される：

- 競技者が挑発的、嘲笑的あるいは扇動的な身振りをしていると主審が判断したとき
- 競技者が得点の喜びで周囲のフェンスによじ登ったとき
- 競技者が得点の喜びで頭越しにジャージを脱いだり、頭にジャージを被ったとき

得点の喜びでフィールドを離れること自体は警告に該当する反則ではないが、競技者はできる限り早くフィールドに戻ることが原則である。

<新しい文章>

次のとき、競技者は警告される。

- 競技者が挑発的、嘲笑的あるいは扇動的な身振りをしていると主審が判断する。
 - 競技者が得点の喜びで周囲のフェンスによじ登る。
 - 競技者が得点の喜びで頭の上までジャージを脱ぐ、または頭にジャージを被る。
 - 競技者が得点の喜びで頭や顔にマスクまたは同様のものを被る。
- 得点の喜びでフィールドを離れること自体は警告となる反則ではないが、競技者はできる限り早くフィールドに戻ることが原則である。

*日本協会の解説

昨年（2006年）のワールドカップでも見受けられたが、得点の喜びを表現するため競技に不必要なマスクを持ち込み、得点后それを被ることは過度に喜びを表現することであり、その行為を行った競技者は反スポーツ的行為として警告される。

なお、サッカーの競技規則については、現在、日本語訳の確認や表現の統一作業を行っているが、この競技規則改正の日本語訳にもその一部を反映している。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 例：ジャージ | ⇒ ジャージ |
| 大会の組織責任者 | ⇒ 競技会の主催者 |
| ジャージは、袖がなければならない | ⇒ ジャージは、袖があるものとする。 |
| 頭越しにジャージを脱ぐ | ⇒ 頭の上までジャージを脱ぐ |

第19回 全国レディースサッカー大会・熊本県予選
スポーツの森・大津マリノス 5年連続5度目の優勝

第19回全国レディースサッカー熊本県予選は、平成19年6月17日（日）に氷川町竜北町民グラウンドにて、スポーツの森・大津マリノスと城山FCレディースが出場し、代表決定戦を行った。

前半、両チームともうまくパスをつなぎ相手陣内へ攻め込むが、なかなか得点することが出来ず時間だけが過ぎていった。

均衡を破ったのは、前半7分スポーツの森・大津マリノス⑨鈴木文子で、左サイドからのドリブルからロングシュートで先制点をあげ、前半を折り返した。

後半、城山FCレディースはMFを中心に、相手DF陣をうまく崩し攻め込むが、1歩及ばず得点にはつながらず、スポーツの森・大津マリノスが再び攻め込み、後半6分ゴール前での混戦から相手のファールを誘ってPKとなり、⑧村上寿美が着実に決めて2点目をあげた。

波に乗ったスポーツの森・大津マリノスは、その後10分にも先ほど先取点を取った⑨鈴木文子がゴールを決め試合終了となった。

スポーツの森・大津マリノスが5年連続5度目の優勝を飾った。尚、優勝した大津マリノスは9月1日・2日に長崎県国見町百花台多目的広場で開催される九州大会に出場する。



大津マリノス（上がオレンジ下が紺）、城山FCレディース（赤）

第12回 九州女子ユース (U-15) サッカー選手権大会

熊本県代表(MELSA熊本FCソヒア・熊本ユナイテッドSCフローラ)全国には行けず

平成19年度第12回九州女子ユース(U-15)サッカー選手権大会は佐賀県総合運動場に各県の予選を勝ちぬいた2チーム計14チームでトーナメントで行われ、宮崎県と佐賀県は代表は1チームが出場した。

一昨年と昨年もVで今年も優勝したのは神村学園中等部女子サッカー部。本県からは先の予選で優勝したMELSA熊本FCソヒアと準優勝した熊本ユナイテッドSCフローラの2チームが出場するも共に一回戦は勝利するが二回戦敗退する。

MELSA熊本FCソヒアは一回戦は長崎県代表の大村チェリーズFCと対戦し、松永真理が21分と48分にきめて2-0で勝利し、一回戦突破に繋がった。二回戦はうないFCと対するが1-0で敗退する。

一方、熊本ユナイテッドSCフローラの方はこれも長崎県代表の長崎ジュニアサッカースクールと対戦し、2対1で勝利する。

二回戦は優勝した神村学園中等部女子サッカー部と対戦し、前半は神村の6阿久根真奈の1点におさえたが、後半はさらに4点を奪われ万事休す。5対0で神村学園中等部の勝利となる。

尚、全国大会は神村学園とうないFCの2チームが出場することが決定している。

平成19年度 第12回九州女子ユース (U-15) サッカー選手権大会

日時 平成19年6月9日(土)～10日(日)
会場 佐賀県総合運動場 球技場南・球技場北



空はメルサ 白は大村一回戦



フリーキックはメルサ



フリーキックはメルサ



ボールを奪う神村学園中等部(白)



優勝戦 白は神村学園中等部



ユナイテッド(赤)対長崎ジュニア(青)

第31回 全日本サッカー大会熊本県予選

熊本ユナイテッドSCU-12 初優勝

第31回全日本少年サッカー大会熊本県予選が5月27日、6月9日、10日、17日の四日間で行われた。

県予選に出場したのは、各支部の予選を勝ち進んだ32チームと2月に行われた新人大会のベスト4のチーム、合わせて36チーム。

大会初日はスポーツの森大津の体育館で36チームの代表者、大会関係者が集まり、開会式が行われた。

試合は大会2日目から県内6会場で行われた。

そして6月17日の大会4日目、リベルタ、豊川、益城ビッグウェーブ、ユナイテッドの4チームが勝ち進み合志市中央運動公園で準決勝、決勝が行われた。

準決勝の第1試合は、リベルタ対豊川。

前半に1点、後半に得点を追加した豊川が2対0で勝った。

準決勝2試合目は、ユナイテッドが益城ビッグウェーブに3対1で勝ち、決勝に進んだ。

決勝はユナイテッド対豊川。これまで両チームは、決勝で2回対戦している。

2月の新人大会の決勝ではユナイテッドが、3月の九州大会の決勝では豊川が勝っている。

前半は両チームとも一進一退の攻防で、0対0で折り返した。

後半は、4分にユナイテッドの大畑がゴール前に上げたボールを木戸がヘディングで決めて先制した。

またその2分後にはユナイテッドの松田がペナルティーエリア前でボールをもらい、デイクフェンスをかわし冷静にシュートを決めた。

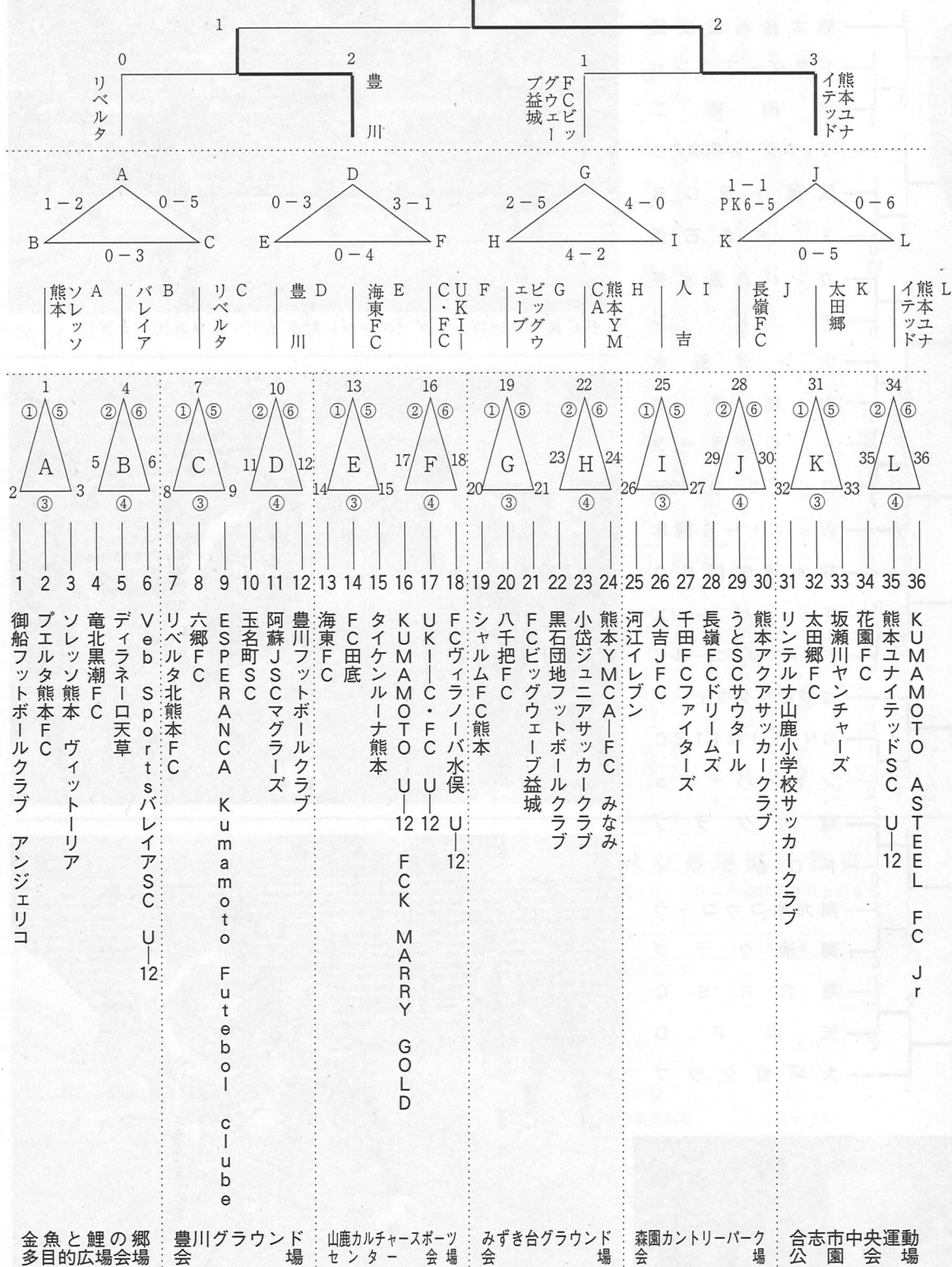
一方、豊川も16分に田代がペナルティーエリア内のこぼれ玉を左からシュートを決めた。

結局2対1で熊本ユナイテッドSCU-12が初優勝を果たした。

また、熊本ユナイテッドSCU-12は8月4日、8月11日全国大会に出場する。(福島県のJビレッジ後、東京都内の味の素スタジアム)

第31回 全日本少年サッカー大会熊本県大会

熊本ユナイテッドSCU-12



水色はユナイテッド 黒白の縦縞は豊川



共に後半点を入れるユナイテッド



第43回 全国社会人サッカー選手権大会 熊本県予選

FCKマリーゴールド 初優勝

第43回全国社会人サッカー選手権大会熊本県予選は平成19年6月10日熊本市水前寺陸上競技場で決勝戦が行われた。

試合は、連覇を目指す熊本県リーグ1部のダイナミッツ八代と、初優勝を狙う2部のFCKマリーゴールドの対戦となった。

試合は炎天下の中始まり、前半戦は静かな立ち上がりでゲームが進み、ダイナミッツ八代がシュート6本に対し、FCKマリーゴールドは3本と八代の優勢で前半戦を折り返した。

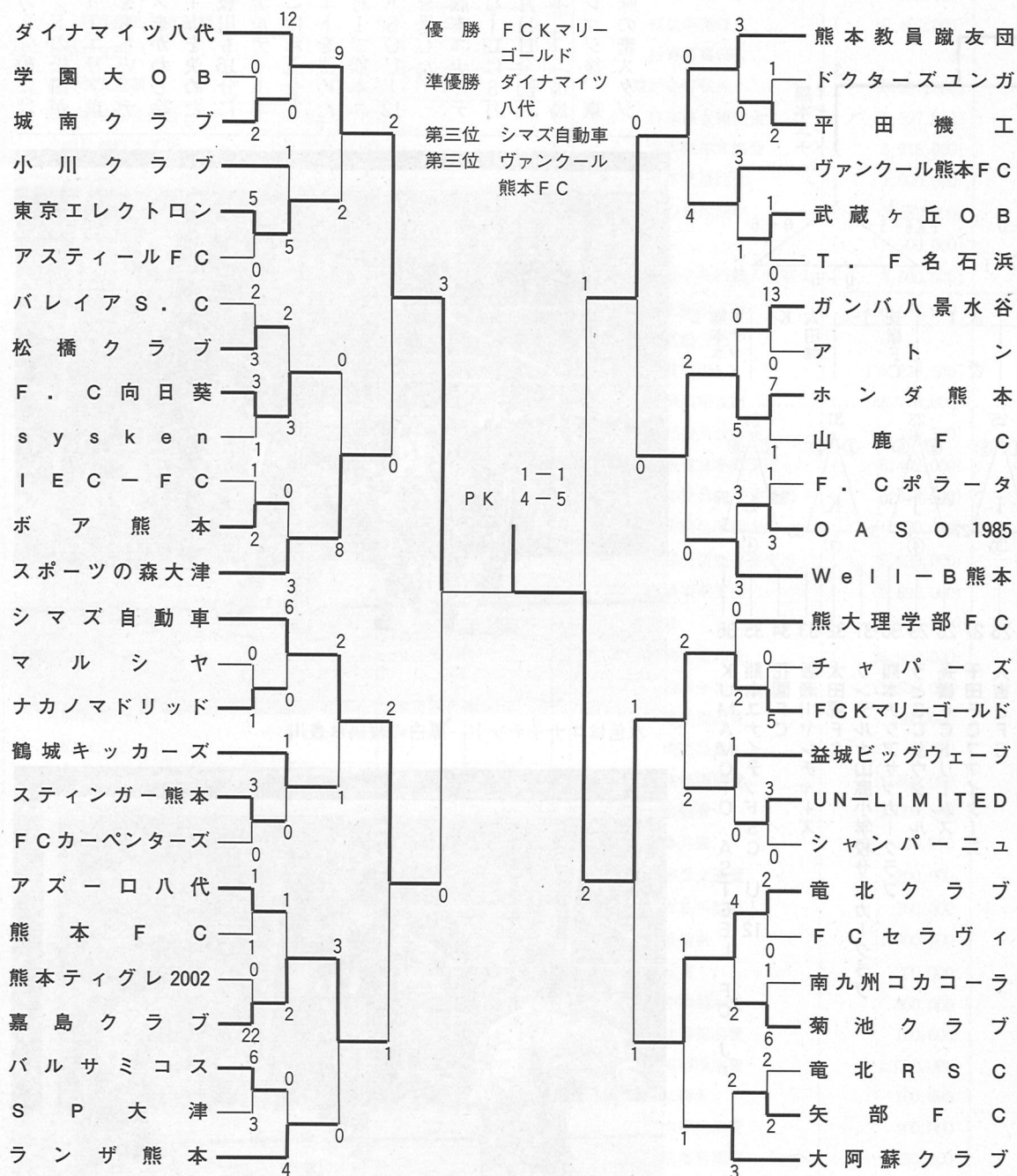
ゲームが動いたのは後半46分、マリーゴールドの左サイド森選手のクロスボールを受けた森田選手が、絶妙のタイミングでFWの木下選手へパス、フリーで受けた木下選手が冷静に決めてマリーゴールドが待望の先制点を奪った。

しかし、その3分後にダイナミッツの一村選手のコーナーキックのボールをMF松永選手が左足できれいに合わせて同点にした。

その後は、お互いゴールに迫るも決め手を欠き後半終了。延長戦でも決着がつかずPK戦に突入した。

八代は4人目がキーパーに止められたのに対し、マリーゴールドは5人全員が決めて、今大会初優勝を決めた。8月17日より沖縄で開催される九州大会に県代表として出場。

平成19年度 第43回 全国社会人サッカー選手権大会熊本県予選



FCKマリーゴールド (エンジ) 対ダイナミッツ八代 (ミドリ)

